



Q 小学3年男児は友達数人との遊びに夢中で、家の手伝いはしないし、頼むと文句を言います。もう反抗期ですか？

友達との関係が強まる時期で中間反抗期とも言われますが、思春期とは異なり、大人への尊敬心はありますよ。

A

自我が育つ時期

小学低学年～中学年の時期は、反抗的な態度が表れやすく、2～3歳の第一反抗期、思春期の第二反抗期の間にあることから「中間反抗期」とも呼ばれています。

生活態度を注意しても聞かなかったり、世話を焼こうとするなど「自分でやるからいいよー」と「自分でやるからいいよー」などに嫌がったりします。とくに口答えが多いのが特徴ですが、思春期のそれとは違い、親に反発しているわけではありません。自我が育ち、自分で考えて行動しようとする気持ちの表れです。

親の意見に対し、「いや、これがいい」と自分の好みや考えを主張するのであれば、望ましい自己主張です。許容できる範囲であれば、尊重してあげましょう。また、この時期の子供は自分を認めてほしいので、「あなたはそう思うのね」と受容してあげるのもいいでしょう。これも成長の証しですから、「心の離乳期」とも言えます。

親も余裕をもって

子供が反抗的になったと思つて厳しくすると、子供は心に傷を負います。親子関係を修復できなまま思春期を迎えると、

不安定な親子関係の上に、さらに本当の反抗期（自立期）で親子関係が難しくなります。

この時期の子供への対応は、親もゆとりをもち、同じ土俵で争わないことです。「お母さんだつて、ご飯食べながらスマホを触っているよ」などと、大人の矛盾を突いてきます。言い訳は通用しませんので、大人も自分の言動を振り返り「そうだね、気をつけるね」と、非があれば率直に認めましょう。

「これも成長の表れ」と、ゆとりをもって受け止められれば、わが子とのかかわりが面白く感じられるようになります。